

明治大学外国人研究者招聘制度 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏名	WEI FANG
Name	
所属機関(派遣元)	安徽工程大学
Affiliation (Home Organization)	
現在の職名	専任講師
Position	
招聘期間(日本への入国日から出国日)	2024年9月23日—2025年9月22日
Invitation Period (from the date of entry to departure)	
専攻	言語教育
Field of Research	
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	廣森友人(国際日本学部)
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme
中国の日本語学習者のウェルビーイングと日本語学習への影響に関する研究
②研究概要 / Outline of Research
近年、ポジティブ心理学(Positive Psychology)の発展に伴い、外国語教育の分野においても、学習者のウェルビーイングが重要な研究テーマとして注目されるようになってきている。学習者のウェルビーイングがモチベーションや自己効力感を高め、学習ストラテジーの活用および学習成果の向上に寄与することが明らかにされている。しかしながら、今の研究の多くは英語学習者を対象としており、中国人日本語学習者のウェルビーイングの構造や、その学習過程への影響については、いまだ分析が十分とは言えない。本研究は、ポジティブ心理学のPERMAモデルを理論的枠組みとし、中国の日本語学習者のウェルビーイングの構造的特徴と、学習ストラテジーへの影響メカニズムを明らかにすることを目的とする。質問紙調査および半構造化インタビューを合わせた混合研究法を用い、中国の日本語学習者ならではのウェルビーイングの分析するとともに、自己効力感や教師サポートなどの要因を媒介変数として、ウェルビーイングがメタ認知的・認知的・社会情意的ストラテジーに及ぼす影響過程を検証する。本研究の成果は、日本語学習者のウェルビーイングの構造と教育的意義を明らかにし、Positive Language Educationの実践に理論的基盤を提供するものである。また、中国人学習者の心理的特性に基づく日本語教育の改善やウェルビーイングの双方を高める教育方略の構築に貢献することが期待される。
③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar
廣森教授は第二言語習得の分野で著名な研究者であり、明治大学での訪問期間中は、教授が主宰する大学院ゼミに毎週参加させていただいた。ゼミでは、モチベーション、エンゲージメント、フロー、ウェルビーイングなど幅広いテーマに加え、さまざまな研究デザインやデータ分析手法が取り上げられた。外国語教育研究の理論的枠組みや方法論に対する理解を一層深めることができ、ポジティブ心理学と語学教育の接点に関する研究視野を大きく広げる契機となった。自身の研究進捗を報告する機会をいただき、廣森教授および参加者の皆様から貴重な助言と指摘を受けたことは、今後の研究の方向性を再考する上で大きな糧となった。また、ゼミ活動に加えて、学部生・大学院生(修士・博士)の中間発表および期末発表会にも積極的に参加した。訪問期間中は、「PERMAモデルに基づく日本語学習者のウェルビーイングに関する心理ネットワーク研究 ― 心理言語学的視点からの考察」をテーマとした論文を執筆・投稿した。また、潜在プロファイル分析(Latent Profile Analysis)と多群比較を用いた論文を執筆中であり、ポジティブ外国語教育(Positive Language Education, PLE)が学習者のウェルビーイング向上にどのように寄与し得るかを検討している。これら一連の研究の進展により、言語学習における情意的要因への理解が一層深まり、中国の日本語学習者の特性に即したウェルビーイングモデルおよび教育的介入の枠組みを構築するための理論的基盤を確立しつつある。

